

5. 血液・造血器 Blood and Hematopoietic System

【1】期 間 R3.1.4~R3.1.18

【2】担当教員（◎は主責任者）

コース責任者 ◎鈴木律朗（教授，血液・腫瘍内科学）

磯部 威（教授，呼吸器・腫瘍内科学）

佐野千晶（教授，地域医療支援学）

コース主任 高橋 勉（学内講師，腫瘍・血液内科）

担当講座：血液・腫瘍内科，腫瘍・血液内科，小児科，臨床検査医学，輸血部，
病態病理学，器官病理学，呼吸器・臨床腫瘍学，呼吸器・化学療法内科，
感染対策室、卒後臨床研修センター、地域医療支援学、薬剤部

【3】一般目標 [G10 (General Instructive Objective)]

血液・造血器・リンパ網内系疾患の病態生理，病因，症候，臨床検査，病理の特徴を学び，
診断と治療のために必要な知識を修得する。

1. 造血器（骨髄，末梢血），リンパ節，脾臓の基本構造を理解し，病態との関連を理解する。
2. 貧血の分類を学び，その成因，病態，診断，治療法を理解する。
3. 出血傾向や血栓症をきたす疾患，病態を理解し，診断と治療法を学ぶ。
4. 白血病とその類縁疾患，骨髄増殖疾患の成因，疫学，診断，治療法を学ぶ。
5. リンパ増殖性疾患の成因，病態，診断，治療法を学ぶ。
6. 血漿蛋白異常をきたす疾患の病態，診断，治療法を学ぶ。
7. 網内系組織の疾患の病態，診断，治療法を学ぶ。
8. 輸血療法及び輸血関連検査を学ぶ。
9. がん診療に必要な統計を学ぶ。

主要な感染症の疫学，病態生理，症候，診断と治療を学ぶ。診断と治療に必要な病原微生物、感染臓器と治療薬の関係性を理解する。

1. 敗血症の症候と診断，治療を説明できる。
2. 市中感染症と院内（病院）感染症を説明できる。
3. 医療器具関連感染症（血管留置カテーテル、尿道カテーテル、人工呼吸器）、術後感染症、手術部位感染症、を説明できる。
4. 薬剤耐性(antimicrobial resistance <AMR>)、菌交代現象・菌交代症、薬剤耐性菌を概説できる。
5. コロナイゼーションと感染症発症の違いを説明できる。
6. コンプロマイズドホストと日和見感染症を説明できる。
7. 新興・再興感染症、人獣共通感染症、バイオテロに関連する感染症を列挙できる。
8. 各病原微生物、各感染臓器の診断の手がかりとなる病歴と身体所見を説明できる。
9. ウイルス感染症診断における抗原検査、核酸増幅検査、血清抗体検査を説明できる。
10. 細菌感染症・真菌感染症診断における直接塗抹、Gram 染色、培養検査、抗原検査、核酸増幅検査、毒素検出検査、血清抗体検査を説明できる。
11. 病原微生物及び感染臓器ごとの適切な抗微生物薬を説明できる。
12. 抗菌薬適正使用(antimicrobial stewardship <AMS>)を説明できる。
13. 予防接種について、適応と意義、種類とそれぞれの投与方法を説明できる。
14. 感染症法を概説できる。
15. 以下のウイルス感染症の症候，診断，合併症，治療法，予防法を説明できる。
インフルエンザ，麻疹，風疹，水痘・带状疱疹，流行性耳下腺炎（ムンプス），ヒ

ト免疫不全ウイルス (HIV) 感染症, 単純ヘルペスウイルス感染症, 伝染性紅斑, 手足口病, 突発性発疹, 咽頭結膜熱, 伝染性単核球症, サイトメガロウイルス (CMV) 感染症, プリオン病

16. 以下の細菌等の感染症の症候, 診断, 合併症, 治療法, 予防法を説明できる。
黄色ブドウ球菌、A群β溶血性レンサ球菌、肺炎球菌、インフルエンザ(桿)菌、*Moraxella catarrhalis*、緑膿菌、大腸菌、*Clostridium difficile*、結核、非結核性(非定型)抗酸菌、マイコプラズマ、クラミジア、レジオネラ、リケッチア、カンピロバクター、サルモネラ、リステリア
17. 以下の真菌感染症の症候, 診断, 合併症, 治療法を説明できる。
カンジダ、クリプトコックス、アスペルギルス、ニューモシスチス
18. 主な寄生虫感染症(回虫症、アニサキス症、吸虫症)を説明できる。
19. 主な原虫感染症(マラリア、トキソプラズマ症、アメーバ赤痢)を説明できる。
20. 院内感染対策における標準予防策(standard precautions)、感染経路別予防策(飛沫感染予防策、接触感染予防策や空気感染予防策等)が必要となる病原微生物を説明できる。患者から医療従事者への病原微生物曝露を防ぐための个人防护具、予防接種等を概説できる。医療従事者の体液曝露後の感染予防策を概説できる。

【4】総合評価

コースの最後の日に、2週間の学習効果を評価するための筆記試験を行います。総合評価には試験成績の他に、病理実習などで提出したレポートによる評価等も考慮されます。

【5】参考図書(◎は購入推薦図書, 他は図書館に備えてあります)

- ◎1. 新臨床内科学第10版 矢崎義雄ら, 医歯薬出版 9. 血液・造血器疾患
2. EBM現代内科学 黒川 清ら, 金芳堂, 7章 血液・造血器疾患
- ◎3. カラー版 内科学 初版 門脇 孝ら, 西村書店, 20章 血液・造血器疾患
4. リンパ腫セミナー 日本リンパ網内系学会編、南江堂
5. 血液病学 三輪史朗 文光堂, 3版
6. 血液細胞アトラス 第4版 三輪史朗 渡辺陽之輔著, 文光堂
- ◎7. 異常値の出るメカニズム 第4版 河合忠 医学書院
- ◎8. 新病理学各論 第13版 菊池浩吉ら, 南山堂
9. 組織病理アトラス 飯島宗一ら、文光堂
10. 輸血医学 全国国立大学輸血部会議輸血医学カリキュラム委員会編, 金芳堂
11. 実践・輸血マニュアル～自己血輸血から輸血療法全般の理解を求めて～脇本信博 医薬ジャーナル
12. 入門腫瘍内科学 改訂第2版『入門腫瘍内科学改訂第2版』編集委員会 篠原出版 新社
13. 造血器腫瘍診療ガイドライン 2018年版 日本血液学会編, 金原出版
14. Wintrobe's & Clinical Hematology 11th ed., Greer JP. et al., Williams & Watkins,
15. Williams HEMATOLOGY 7th ed., Lichtman MA. et al., McGraw-Hill Medical,
16. Hematology Basic Principles and Practice 4th ed., Hoffman R. et al., ELSEVIER CHURCHILL LIVINGSTONE,
17. レジデントのための感染症診療マニュアル, 青木眞, 医学書院
18. 新訂第3版 感染症診療の手引き—正しい感染症診療と抗菌薬適正使用を目指して 感染症診療の手引き編集委員会(著) シーニュ; 4版(2019)
19. 感染症プラチナマニュアル 2019, 岡 秀昭 (著), メディカルサイエンスインターナショナル

【6】局所解剖 なし